

会 議 録

1. 件 名：長崎市まちなか賑わいづくり活動支援補助金交付審査会
2. 日 時：令和8年7月8日（水） 13時15分～17時15分
3. 場 所：長崎市役所 2F 市民利用会議室
4. 出席者：（委員）片山会長、松本委員、高橋委員
（事務局）まちなか事業推進室 浦室長、山田係長、宮本、岩本
5. 議事次第
 - (1)開会
 - (2)審査委員紹介
 - (3)事務局紹介
 - (4)会議の公開・非公開の取扱いについて
 - (5)議題
 - ①まちなか賑わいづくり活動支援事業及び審査会について
 - ②審査会スケジュール及び審査方法について
 - ③まちなか賑わいづくり活動支援事業プレゼンテーション審査
 - (6)その他
 - (7)閉会
6. 議事概要
 - ・会議の公開・非公開の取扱いについて
事務局より審査方法や採点に係る部分は非公開、応募者のプレゼンテーションについては、公開することを説明した。
審査委員から事務局の説明に対して特に意見なし。
 - ・議題 1 まちなか賑わいづくり活動支援事業及び審査会について
事務局より、まちなか賑わいづくり活動支援事業の概要及び審査会の役割等について説明した。
審査委員から事務局の説明に対して特に意見なし。
 - ・議題 2 審査会スケジュール及び審査方法について
事務局より審査会のスケジュール及び審査基準や審査方法（案）について説明した。
審査委員から事務局の説明に対して特に意見なし。
 - ・議題 3 まちなか賑わいづくり活動支援事業プレゼンテーション審査について
応募のあった13件の事業について、プレゼンテーションを行い、審査の結果4件が採択事業となった。
なお、質疑応答内における主な意見は以下のとおり。

【①この街には、まだ物語がある。一まちなか回遊型体験ストーリー】

発言者	質疑応答内容
審査委員	ご説明ありがとうございました。 私からの質問は、地点ごとに複数作られるのかなと思うんですけど、何分間ぐらいの映像でこういったタイプの映像になるのかということが、予定されている内容で説明いただけますでしょうか。
応募者	ご質問ありがとうございます。 1 地点につき 2 分から 3 分程度の映像を予定しておりまして、5 時点で合計で 15 分の映像を予定しています。
審査委員	映像の内容は、2～3 分の映像の内容が、例えばショートムービーのような、映画の 1 シーンみたいな形になるのか、その場所をちょっと紹介するような雰囲気になるのかとかそういったどんなテイストの映像になりそうなのかっていうところを教えてください。
応募者	ありがとうございます。 基本的にはショートムービーのような対応で考えております。 というのは地域紹介の映像はやっぱり今結構たくさんあって、それこそ Instagram とか SNS は入れてると思うんですけども、そういうところじゃなくて、やっぱり、それこそが、例えばですけど、踊る大捜査線でレインボーブリッジが出てきて、あ、今のところ行ってみたいってなると、やっぱり場所を魅力的にとらえるためにはやっぱりこの場所の説明的なことよりも、映像として魅力的映像を映画的に発信することがより魅力的にお伝え出来るかなという風に考えます。
審査委員	ご説明ありがとうございました。 3 点ちょっとお尋ねしたいと思います。 資料に記載や市役所さんに話していたら失礼して、もう一度教えていただければと思うんですけど、1 つがですね本イベント等の規模ですね。参加者数どれぐらい想定されてるのかっていうのと、本年度補助事業期間を無料でされるのかっていうのとあと 2 年目以降こういった事業の継続性と有料化とかお考えになられるのかっていうのを。 2 点目が今のご質問に関連してですね、地域との繋がりということで商店街さんとかストローカルさんとの連携ということでおっしゃられたんで、これまでの準備状況がどうかっていうのと、具体的にどう、規模感も含めて商店街さんとかですね、ご協力、こういった形で進めていかれるのかということなんです、最後すみませんいろいろ申し上げて可能な範囲で結構で答えいただければと思うんですけど。 2 年目以降のですね継続性とか化事業の今回コンテンツとか映像等をまた拡大して事業化継続したりしていかれるんでしょうけど。 そ、そういったところの情報発信の仕方とか今現段階での次年度以降の事業のイメージを教えていただければと思います。
応募者	はい、規模感で言うとですね、一応来場者数は 100 から 200 を一応想定しております。すみません、2 つ目以降がちょっと途切れ途切れで。
審査委員	規模感あたりでのもう事前に商店街さんと打ち合わせとか、人のさばき方とか、ストローカルさんも含めてこういった準備を今されてるのかっていうと、もしあんまりされてなかったら今後どういう準備を進めていくかっていうところなんかあります。
応募者	はい、えっとですね僕ら自身が今東京にいまして、8 月 4 日からですね長崎に行くにあたってその時点でロケハンを含めて、こういったルートでこういった内容がいいか、ストーリーがいいかっていうのがまずロケハンをした上で、そこに商店街、非常に表紙をつけているのがまちなかの中通り商店街のあたりを拠点としてですね、ちょっとお話をしていきたいと考えていて、中通り商店街の方とも以前ですね、少しちょっとお話をさせていただいたことがありまして、そこも含めてまた改めて、こういったイベントを企画しているということですね、ちゃんとお話した上での連携も含めて、新しくしていきたいと思います。

審査委員	ありがとうございます。 それと最後が今年度以降のイメージを少し何か、具体的な事業の拡大とか、また次のステップというところあれば教えていただければと思います。
応募者	今回はですね、初めての取り組みでもありますので、来場者数は100から150、200名を想定しているところであります。 なのでですね今回のイベントにも、東京でそういう、今東京にいるけど長崎だった方とか、長崎ゆかりがある方にはもうお声掛けをされていてですね、イベントに来ていただけるような、流れにはなっております。 2年目以降なんですけども、それで協賛であったりパートナーを募集している中で、規模としては300人から400人、その翌年にはさらに500人や600人っていうふうにですね、徐々に徐々に伸ばしていくような流れというふうに考えます
審査委員	ありがとうございました。私からは以上です。

【②長崎の食文化「新旧再発見」一刺ししゃぶ&三河内焼】

発言者	質疑応答内容
審査委員	コンベンションの高橋といいます。2 点ほどご質問させてください。声聞こえてますか。体験イベントということで、マリア園だった建物を活用されてるということで非常に魅力的な、体験コンテンツを作られようとしてるんだなということで、拝見してたんですが、具体的なイベントを体験型イベントをやられるというご説明があったかと思います。 こちらはいつごろの時期に、例えば1 日なのか2 週間なのかちょっとわからないんですが、誰を対象にどれぐらいの期間、いつごろやられるのかみたいなことを教えていただければと思います。私からは以上です。
応募者	はい。イベントの時期につきましては大体秋の10 月頃を想定していて、まだ日程の細かいことはこれからになるんですけど、基本的には1 日のイベントっていうのを考えてます。 そこが広げてる形なので、それを徐々に、浸透させていくというかある程度の中身落とし込んでいったりとか、それが継続していくような一番最初のイベントってのは1 日でやりたいというふうに思ってます。テレビ関係の方であるとか、あと他の市民の方々に関してはホテルの方が SNS とかでですねホテルを通じて公募させていただいて、その中から抽選という形で選ばれた方に集まっていたいてホテルのどうしてもレストランのキャパシティとか都合がありますので、そんなに多くの人数の方をお呼びするっていうことはちょっと考えてはないんですけども、多分10 名から20 名程度ぐらいの方々に集まりいただいた特別な1 日というのを考えております。
審査委員	ありがとうございます。 よくわかりました。
審査委員	ご説明ありがとうございました。すいません。少し教えてください。 今回3 つの融合ということで魚、刺身それから歴史的建造物とか伝統工芸ということと、最後ご説明ございましたコースの最後の締め刺身のシャブシャブ、リゾットとか、そういったご提案ということだったんですけども、今回のそこにたどり着くまで試行錯誤とか、なんかその研究してそこを一番今回の売りっていうか補助事業でやろうってたどり着いた経緯とか、あれば教えていただきたいなと思いました。 それと刺ししゃぶの何か魚種とかどんな種類でやるのか、複数やるのか、どんなイメージでしょうか。
応募者	すみません、最後が聞こえなかったです。
審査委員	そうですねこれまでのちょっと研究経過経緯と、刺ししゃぶの何か魚種っていうかその魚の種類はどういったのを使われるご予定か教えてください。
応募者	はい、経緯としてはですね、ホテルとしてどういったことをやるというか、長崎の中の価値というか、ホテルを通じて長崎を見てもらうというか、そういうところを視点として前提に持っていてですね、私も長崎に参りまして2 年ぐらい経つんですけどもやっぱりここですごく感じたのは本当にいろんなものがたくさんあるまちということと、すごく魅力的なまちにうつったんですけども、それを知らなかったことがすごく多かったってのはやっぱり外から来てすごく感じたところでして、そこを広めていきたいという思いがあった中で、いろいろ歴史的なものを特にやっぱ歴史・文化の町だと思いうんですけれども、そこに至るいろんな要素というかコンテンツがたくさんあると思いうんですね。そういうことでちょっと持ってきたっていうのは、1 つありましてその中で刺身、魚が新鮮だっていうのは長崎ならではのですね、それで刺身を食べたりすると他のところでは食べられないっていうぐらいそういうふうにすごく感じる場所なので、刺身・刺ししゃぶっていうことろぜひ活用させていただいて、かつ魚種のところですけども、やっぱり長橋がひらすですかね、ヒラマサ、長崎ではひらすというと思いますけど、あと鯛とかそういったところをおりまぜて3 種類ぐらい、ちょっと季節によって変えるのかというところはまた総料理長とこれから相談していく部分になると思いうんですけれども、ひらすはっていうのはちょっと外せないかなということを考えておりました。

審査委員	ありがとうございます。 それとちょっと先ほどのご質問あったんですけど、主なターゲットってのは観光客とか来訪者とかっていうイメージかなと思うんですけども、その中にインバウンドいろんなマーケティングとかされてるかもしれませんけどどれくらい想定されてますかウエートの的に。 長崎を訪れる観光客とか、いろんなお客様をターゲットにされてるような、事業かなと思うんですけど、その中での外国の方のインバウンドどれくらい取り込むかなとか何か具体的にあります。
応募者	我々、現状のところからですねお伝えいたしますと、大体約開業して今2年目なんですけれども1年目は大体3割程度が海外の方で割合を占めたというところで推移していたんですけども、2年目に入りましてですねやはり今年ははかかなり海外の方が増えているというのがありまして大体平均すると半分ぐらい、5割ぐらいの海外の方がいらっしゃっているの、我々としては海外の方だけに向けたものではもちろんないと思うんですけども、海外の方の知らないものもありますし、またやっぱりまちの魅力っていうところから、長崎の魅力それが日本の魅力になるというか、そういう発想を持っているので、ターゲットとしては引き続き半々ぐらいかなとは思っているんですけども、海外の方にもすごく、刺さるものあって、かつ日本の方々の割り振も多いのですがに東京や福岡からいらっしゃる方が非常に多いので長崎にいらっしゃる方々に対してもそうですし、また高齢者のように感じた地元の方々がすごい多いので地域の方々も、なかなかこういう取り組みを知らない方とかですねいらっしゃったりするかもしれない。そういう方々の歴史の対比意識というか、背景ではないですけどそういった機会にもなれば。
審査委員	ありがとうございます。それとすいません最後にもう1点、そういう意味では提供される内容プラスその価格設定は今回ちょっと補助事業で動かされて、いろいろ試行錯誤されながら、料金の体系もちょっと今後検討されるみたいなイメージですかね。
応募者	そうですね、そこも含めて先生方と今検討していてコースメニューにアップグレードみたいな形で提案できるような、そんなところです。

【③ ながさき対話マルシェ ～声を聴く つながる まちの力～】

発言者	質疑応答内容
審査委員	ご説明ありがとうございました。 私 2 点ご質問があります。 1 点目はホストやファシリテーターの方がすごく重要な役割を担うと思うので、当日その役割を担っていただけるような方をグループの数準備しないといけないというところで必要なファシリテーターの方の確保の見通しが、どの程度ありますかっていうのが 1 点目です。
応募者	その件に関しては、今日本ファシリテーター協会の長崎支部の勉強会に参加していますし、長崎で様々な活動されている子供塾とか森の幼稚園とされている方たちと一緒に活動して、今度壱岐とかに行くんですけれども、その方たちに声をかけたいと思っています。
審査委員	ありがとうございます。 それから当日のイベントに関するちょっと詳細の部分のイメージなんですけども、例えば、最低 50 分ぐらいが 1 つの固まりになるのかなと思うんですけど、その 1 個だけ 50 分参加して帰ってもいいし、1 日やってるから、好きなところに来て少なくて帰ってもいいようなある程度自由な感じになるのかなと思ってんですけど、その結果いわゆるその参加費とか多分発生しないと思うので、確実にその 5 人単位でしたかね、5 人グループが埋まるように埋まればいいですけども、多すぎても困りますし、ガラガラでも困るってところで、程よい人数を参加させるっていうコントロールは結構難しいことかなと思っているので、その当日わりと長丁場のところ、各テーブル 5 人数ずつぐらいの人数が集客できるようにするための方策として、例えば事前予約を受けるとか、当日たまたま通りかかった人も飛び込みで参加していいようにするとか何かそういう当日の運用として考えてらっしゃる方法を教えてください。
応募者	A 区間と B 区間がありまして、長いほうにイスを 10 個並べたいと思っておりまして、こちら 250 人 10 個のテーブルで 5 回回転するので、これを事前予約にしようと思っています。 A 区画の方の電車の方からは、相談ブースとして通りがかりの方が誰でも参加をして、この話できるような、ブースにしたいと思っています。
応募者	わかりました。ありがとうございます。

【④ 東山手 シャボン坂の窓】

発言者	質疑応答内容
審査委員	国際観光コンベンション協会高橋です。 非常にいいなと、興味深く、プレゼンテーション聞かせていただいたんですが、ステンドグラス石鹸という発想自体もすごく、何ていうか実効性が高いけどお子様のワークショップでみたいなことで絶対喜ばれるコンテンツだなと思って伺ってました。 具体的には9月の居留地まつりのワークショップでということだったんで、今年度のステップは十分、いいなと思いつつ、質問なんですが、次年度以降、今回材料費等を今回の審査会の補助金でということでしたら、次年度以降はどんな形でまわしていったら、持続性がどうなのか、或いは、少し発展性も含めてどういう形で展開されるのかっていうところをもしお考えがあればお聞かせください。
応募者	はい。まず今年度ですが、材料でこういった各パーツを作るための型ですとかそういったものをちょっと今開発しないといけないっていうところで、ちょっと今回の補助金を申請して動いているところです。 今回れきまちでワークショップをしながら様々な意見もあってさらにブラッシュアップして、販売ですとか、今後定期的にワークショップを開催できるように、紹介とかあと、いろいろ意見をもらって、どうしたらもっと参加者が楽しめるようになるのかとか、そういったことを要素いろいろ入れていくというふうに考えています。
審査委員	私からの質問は、制作部分の方は写真もあって結構イメージしやすかったんですけどその回遊の部分がですね、具体的に完成を待つまでの間が、例えば何分1時間とか時間ですとか、あと例えば誰かが案内するようなイメージなのか、勝手に回ってくださってという感じなのかその回遊をさせるところの仕掛けとといいますか、流れをどういうふうなイメージされてるか教えて欲しいです。
応募者	はい、石鹸が固まるまでに15分から30分ぐらいかかります。 その間にちょっとあらかじめ、この地域の洋館、こういった場所にこういった洋館がありますよってような資料を準備しておいて、ちょっとそれを見ていただいて、完成したあとと見に行こうかっていうふうに、今のところ、各自ってもらえるような流れですね。 設計をもって設計を持ってですね、完成した後で完成した後ですね。
審査委員	完成したあと？石鹸をもって？
応募者	完成した後、石鹸を持ってですね。いろいろ長崎旅とかもいろいろあるんでワークショップ形式とかいう形もできますけど、ちょっとまだそこは後具体的にどうするかっていうのが、これから検討していくっていうところの段階です。
審査委員	あと今後の展望なんですけど、例えば材料費をいただいて、例えば焼き物体験とかも材料費は実費をいただくけども、という形で運用とかね、あと完成されたものをお土産として販売するとか、そういった収益に繋がるような方策も、今後可能なのかなというところもちょうと教えて欲しいです。
応募者	はい。ワークショップもやるんですが、販売を見据えていまして、今回まず材料費ですとか型づくりっていうところで補助金ですが、その一番お金がかかるのが型づくりとか溶かす時間なので、今回開発できたらあとはもうその販売ですとかワークショップとかの費用でグルグルまわしていく、いけるんじゃないかなっていうふうに考えております。
応募者	私は壱岐市在住の石鹸職人の草野と申します。それで私化粧品品の製造の許可を取っているんで、こちらワークショップを通じて、地元の方たちとどんなデザインかどういいうのがあったら楽しいか、綺麗かっていうのをこの期間内にブラッシュアップしていったら、来年度には商品化して一緒に作ったものということで発表したいなと思ってます。 先週末に石丸文光堂さんのイベントが出島メッセであって、試しに石鹸のワークショップをしてみました。 まだそれは最終ではないんですけど、試しにやったものがあります。 石鹸にも香りとかもつけれるので、どういった香をつけようかとかそういったのも今

後いろいろ考えたりとかしているのです。

【⑤ ながさき、人をつなぐ人力車。一引く・乗る・語る 体験プロジェクト】

発言者	質疑応答内容
	※事業者が欠席のため、質疑応答なし

【⑥ ながさきアートストリート ―まちなかアートから平和と文化交流―】

発言者	質疑応答内容
審査委員	ご説明ありがとうございました。 ご提出いただいた資料の中で、事業がいくつかございまして、今ご説明いただいて、収支予算のところは事業費全体と一部補助金と自己資金ということで、すべての事業を、もうこれだけの予算で賄って運営されていくっていうご予定ですか。
応募者	今まで幾つも続けてきたアート系のイベントを1つのイベントとしてまちなかでやろうということで、キッズゲルニカっていうのを毎年平和公園でやってるイベントなんですけど、それを今度は場所を変えてやろうということなので、その平和公園の展示に関して、あとは制作に関しては、他の補助金が入ったり、ほかの会議に入ったりしてます。 台湾に関してもそういう感じで入っています。
審査委員	部分的についていうことで。
応募者	はい、そうです。まとめて、1つの連続したイベントとしてやるということです。
審査委員	ただ、今回このまちなかにぎわい補助金で、今回のこのまちなかにぎわいづくりの事業と補助金で今回の補助金を活用することで、特に何か工夫されてる点とか、事業の継続について何かご説明いただけたところがあれば教えていただければと思います。
応募者	作品をです例えば美術館で展示するってことで、1ヶ所に初めてちょっと来た人に見てもらってという方法じゃなくって、まちなかにもばらまいていうことを考える仕組みと、すごい携わる人と見る人ですね、さわる人、人が歩いて通ることで、まちが活性化するし、人が移動することで、3000人は必ずということで、目を見る、作品を見るっていう人が、まず1万を超えenとております。 そういう意味で、まちなかに持ってこようと思いました。
審査委員	私の方からは、この予算書の中でマップ制作やパンフ制作に関する予算が挙げられてるんですけども、計画書としては4つのイベントが書かれてまして、今、先ほどご説明もあったように、他の部分で実施が進んでる部分も含めているというところで、この今回申請されたその予算と、すでに進行が進んでいる各独立したプログラムとのちょっと関連が紐づけがしにくいかなんと思ってるんですけど、例えば作られるパンフレットとかマップは、その4つのイベントが全体像がわかるようなものを作られるのか、各イベントごとの何かマップやパンフレットを想定されているのかを教えてください。
応募者	もちろんこれは統一したこのまちなかでやるよっていうそのイメージが大事なので、もちろんマップっていうのはそれはもう体制をふやして、それで全部のいろんなイベントを見ていただきたいということで、あえてマップっていうふうにした上で統一イメージつけて、マップとか後、いろんなロゴをつけたりとかそういうものは1つのまちなかのアートというイメージをつけるためのものです。

【⑦ まちなか魅力（周遊）ガイド】

発言者	質疑応答内容
審査委員	ご説明ありがとうございます。最後のところも含めてこれから伸びしろのあるような分野についてのご提案という部分だったかなと思って拝見しました。 2点ほど質問させていただきます。 先ほどお客様、いろんな客層の方をカバーするということで、高齢者の方もなんていう話も出てましたが、移動する際の手段ですね、何かタクシージャンボタクシーみたいなものを使われるのか、もう勝手に歩きだけなのかという、足の話。 それから今回ガイドの賃金という形で見積もりを、予算書を見ると、出ているので、ご案内した部分は今回のお金で出すよっていうのが見えてきたんですが、次年度以降はどんな形でお客様からお金をいただいてやるようなイメージなのか或いは何か違うことを考えておられるのか、その2点お聞かせください。
応募者	当初はサービスで、アプローチ段階ではサービスでご案内させていただいて、それに特典がつくよというところで、その場合は料金いただく形にしてございますが、今有償のガイドできるの方もいますけど、その方たちも協力していただけるというところで、足はですね私が7人乗りの車もあるのでマイカーですね。
審査委員	ご説明ありがとうございます。 私の方からは、こういったサービスがありますよということをどうやって、地域の方や観光客の方にお知らせをするのかっていうその部分に関する質問です。 予算書の方を見ましたら、予算の方はもう賃金と着物レンタルの着付けのための費用が取られてましたので、こういったサービスをやってます、例えば今は無料ですとか、こういったエリアでこういったことがガイドが、できますとか、そういったのを知らせるためにどんな方法を使って広く案内をされるかという計画を教えてください。
応募者	SNSにですね、登録しまして、それで発信させてもらうようにしようと思います。 こちら観光客の方にですね、直接声をかけて、そっからスタートしていきたいです。

【⑧ ながさきグラバー園歌謡祭】

発言者	質疑応答内容
審査委員	ご説明ありがとうございます。最後はお話されてたところとも関係するんですけども、今回、長崎市様のまちなかにぎわいづくりの補助金を、ご活用いただいて取り組まれることになるんですけども、次年度、最後おっしゃられた1年限りではないとか例年開催をというご説明いただきました点で、次年度以降に向けてその周りを巻き込むご予定とかですね、主な協力者とか、そういったところで次年度以降の資金手当てとかご計画のところを少しお聞かせいただければと思います。
応募者	答えになるかわからないんですけども、NPO 法人長崎のうたいろはにほへとを作ったのが、長崎新聞社が、長崎の歌の歴史の先生宮川さんっていうのがいるんですね。僕も長崎の歌は昔から作ってて、その方が90過ぎて家に長崎のレコード・CDを全部もってらっしゃって、1万円で自分が亡くなったらごみに捨てるって家族から言われたもんだから、どこかでもらってくれるところを探したんですけど、県立図書館も市もどこも断られて、それを僕のところにきたんですよ。最終的に松原さん全部捨ててもよかけん一旦全部もろうてくれって言われて、活用しようということでNPOを設立したんですね。それは今あぐりの丘で長崎海洋館ということにあって、資料が全部入れて、ただそこにはないんですね。長崎のためにイベントしようということになって、イベントもう3年前にやりました。長崎の歌を踊りとか歌とかイベントでやるんです。そして長崎の歌についての勉強会の練習所って感じで、ここが銅座で図書館してるもんだから毎月そこでやる。これじゃ広まらん、やっぱりうちのNPOの目的が再び長崎歌のまちにということで、東京の次に長崎の歌って多いんですね。もう本当1000以上あるんですね。それをせっかくなら長崎に1年に1度みんな来てもらって歌う会をやりようと思って、ただ、長崎の歌じゃなくてだから今回は、これ例えば昭和の流行の曲600曲のってるんです。この中でみんなで百曲選んだんです。百曲選んで、それをチラシの後ろに書いて、これが課題曲ということで、その中で、選んでも来た人は全部出すということで、やりようと思ってます。さっき巻き込むといていたのは補助金が1年目にとるのはですね、グラバー園の入場料とか高くなったんですね。参加者からも当然参加費は取るんですけど、音響代とか足りないんですよ。それで1回目はとりあえずは補助金をもらってやって、毎年グラバー園で歌謡祭というふうにする。この前美輪明宏さんが6月20日に亡くなったから美輪明宏さんの歌も当然入ってるんですよ。少しそこんとは膨らまして、美輪明宏の事務所に連絡して、これが通れば美輪明宏記念というのを頭につけて、美輪明宏記念長崎グラバー園歌謡祭でやろうかなというふうに思ってます。続けていくことについて、テレビ局にも、どこかに中継をお願いしに頼みに行こうと思うんです。決まったら。全国的に知らせるのはカラオケなんていう本で、それが2冊あるんですけどそれが早く決まるんですけど、間に合わなければどうかなというのがあります。
審査委員	ご説明ありがとうございます。 当日のイベントの様子をちょっとイメージしたいのでお聞きしたいんですけど、会場に使うと思ってらっしゃる広場ですけど、写真を見たところ、ステージとか客席的なものは多分ない広場だと思うので、例えば簡易のちょっと低いステージのようなものとか置くとか・・・
応募者	ステージは全く作りません。 バックは長崎港で稲佐山が見える、バックにグラバー園で歌おうという
審査委員	それを聞く方たちは周りに立ってみてるんですかね
応募者	まわりに全部立ってみます。いすがあればグラバー園からいただこうと思っています。
審査委員	そしたら間この広さ的には何人分ぐらいが座ったり聞いたりできそうなスペースにな

	りますか。
応募者	300 人は入ります。
審査委員	あと心配なのは屋外の場合、雨だったときの対策ですけど、雨だった場合どういうふうな対策をされますか。
応募者	雨は降りません。日にちも考えたのが、雨の降らない時期を選びました。
審査委員	いつごろですか。
審査委員	10 月です。おくんちのあとのところですよ。東京オリンピックの日ですね、あの日も 1 雨が降らない日を選んでる。 一応対策は考えています。雨が降っても・・・降らない。 長崎は今日も雨だった曲に入っていません。

【⑨ いろんなカルタで遊ばんネエ！】

発言者	質疑応答内容
審査委員	非常に勉強にもなりましたし、面白い魅力がこんなにあるんだということで、はい。気になって、ちょっと家に帰って調べてみようと思うんですけど、すみません、細かい話で恐縮なんですけど資料いくつか拝見しております。 収支予算書を拝見しております。 その中にはいろいろ先ほどね、もう会場とかもおさえているって使用料とかいろいろ書いてあって、なるほどと思って読んでいたんですけど、中に委託費というのがございまして、内訳を申し上げますと 26 万ぐらいなんですけど、この委託費は何の委託でございましょうか。
応募者	委託費は資料館をお借りしたり、そういうのもありますし、新たにですね、先ほどちょっとお話しましたが、天正カルタ、今皆さんにみてもらった、トランプになってるので、カルタを新しくちょっと作り直すっていうので・・・これが、天正トランプです。 これがもとに日本のオリジナルで、先ほど見せたオランダカルタの最終版がうんすんカルタで、これなぜうんすんカルタがなくなったかというと、ちょっと余りに流行りすぎてちょっとバツみたいなどこあったのでなくなる。
審査委員	天正カルタを作り直すのに業者さんに委託しての委託費っていうのは承知いたしました。
応募者	天正カルタを発展させたのがうんすんカルタで、天正カルタは 48 枚です。うんすんカルタは 75 枚です。そしてうんすんカルタが爆発的に人気になったのでもうひとつしんすんカルタが 92 枚あって発展していたんですけど、あまりにも数が多くてできなかったののでしんすんかうんすんカルタは人気です。一番最初は出島で教育によってことでうんすんカルタをはじめたんですけど。 私はそれとちがってみんなでわいわいがやがや遊べるそういうカルタにしたいなと思っている。ちなみに天正カルタ、ピンからキリなどそういうのがある。うんすんカルタもうんもすんもいわないという意味があってそういうのも覚えていただければ楽しいかなと。それから長崎オリジナルのかるたを作りたくて予算の中に入れてますけど、この天正カルタを作った大牟田のカルタさんは天正カルタを民俗資料館でゲームができないかなと頑張ったんですけどオリジナルでもいいから長崎の天正カルタということでそういう風にきめて予算にいれました。

【⑩ 若者が長崎のまちなかを再発見・再発信する体験型フェスティバル
「ながさきユースタウン・フェス 2026」】

発言者	質疑応答内容
審査委員	国際観光コンベンション協会の高橋です。非常にプレゼンも素晴らしかったし、熱意も感じて面白いなと思ったのとすでもう 63 人の学生さんがアカデミーということで、参画されているという前提で動いてるというふうにお聞きしたんですが、先ほど最後の方に予算の概要で出て参りました、少し気になったところで、委託費の映像制作でございました、これはいくつかアカデミー、プロジェクト、フェスと大きく 3 つほどありましたが、どの部分でしょうか。
応募者	フェスですね。今すでに走ってるものに関しては、事務局の方での映像を撮って SNS 等に共有しているというのと、それから学生がちょうど今トランジションのタイミングでこれも働く体験ということでマーケティング部のようなもので、そこが SNS を引き継いだ形で、今回ここで挙げさせていただいてるのは、フェスのところで、いろんな写真であるとか動画を撮っていただくということを想定してます。
審査委員	自分たちのその活動を発信するための動画ということで、わかりました。ありがとうございます。私からは以上です。
審査委員	ご説明ありがとうございました。 ちょっと同じような質問になるかもしれませんが。 実際もう動かれてるということなんで、全体的な事業費を維持、確保されたりとかご計画の中で、今回のまちなかにぎわい創出補助金での事業費っていうのは当初から計画的に活用しようということとか、追加的にイベントをされたりだとかどちらでしょうか。
応募者	すべて走りが正直なところなんですけれども、いろいろな活動をしていく中で、全体像は、これは去年、うちにこのページに出すものは書いてます。 その中で、いろんなその資金の調達の方法あるであろうということで、いろんなことを調べていたという中で、このフェスのところがちょうど浜町のアーケードのところを使った、入ってやっていくというところでその周りの、いろんな企業さんであるとか、大人にご協力していただく予定を考えていたので、今回のこの公募に関してちょうどおうであるだろうというところで、申請させていただいたというのが実情です。
審査委員	学生さんが参加されたりとかいうところもあったりする周りの巻き込み方とかその協力関係先とか、今実際プログラムとか運営も含めてどういった体制で動かれてるのか教えてください。
応募者	えっとですね、今はまさに、4月に学生募集して5月からスタートしたんですよ。ほぼ SNS を使ってこのアカデミーという学生を集めさせていただきました。 ここからですね、5月、6月、7月、まさにこの3ヶ月にいろいろなインプット、歴史であるとか、今週末研究所の方に長崎の経済の話をさせていただくんですけど、それをした上で、全体のデザインしていくっていうペースですのでこれから本当にどういうことをやりたいかっていうことを学生が、具体案を出していった誰に聞き込むべきかっていうところを、この1ヶ月ぐらいで具体化するっていうペースです。
審査委員	そういった動きもありながらその準備段階では地元の関係先とか、いろんな協力先とか・・・
応募者	はい。市長ともお話をさせていただいて一応長崎市の後援、長崎市と長崎教育委員会の後援をいただいているのと、あと長崎商工会議所の専務とも話をさせていただいて、あと長崎経済委員会も、私も経済委員会の SDGs の役員やっていて、委員会の方、もう委員会と話をしてみたりとか、そういった経済界、それから教育委員会方々、県の方とも話をしながら進めていくという話をしている。
審査委員	ワイアンドワールドとかも関係してきたりとか？
応募者	ワイアンドワールドはちょっと別です。

審査委員	ご説明ありがとうございました。 フェス当日のイベントでメインになるのはこの学生さんのプロジェクト発表の部分になろうかなと思うんですけど、アーケードの中で発表とかをするとすると、どうしても箱的なものが必要になるのかなと思うんでその辺の会場設定などは？
応募者	最終的には会場はですね、調整中なんですけれども、1 つはシビックホールのメットライフ生命のビルとかですね、主催者、インフィニティはあそこの責任者ということで、あそこも考えているというところです。で浜の町アーケードに関しては、2 日間昼間から夕方ぐらいの間でそこを会場として、いろんなチャレンジをこれから具体化するんですけども、例えば長崎での不要なものを活用してアップサイクルしたものをつくる、販売チャレンジするとかですね、それは学生が最終的に決めていくんですけども、あらゆるチャレンジをあそこのベルナード観光通のところを 2 日間おさえさせていただいて、そこでチャレンジをする予定です。
審査委員	あと学生さんたちの動きとか、マネジメントの部分なんですけど、すでに SNS などを通して集められたということで、実際学生の皆さんは中学生、高校生、大学生いろんなところから集まってこられてるんですか。その方たちは当日の発表もありながら、まちミッションの回遊プログラムの方の企画とか準備もスタッフとして関わるような。
応募者	はい全部です。63 人は、プロジェクトなにやるべきか、それから募集もやります、募集は何をやるべきかで市民の方々への告知もやりますし、すべてに関わって、基本的に彼ら彼女たちがデザインする、という立て付けにしています。
審査委員	いろんな学校から異なる学校から集まってきてるような感じなんですよ。そしたら、5 チームで動いてるんすかね
応募者	高校大学がバラバラ。5 チームです。
審査委員	10 人ぐらいのチームが 5 つあるようなイメージだとしたらその 10 人の方が集まったり話し合ってたって結構大変じゃないかなと思うんですけど、そういったところのコーディネートとか、ファシリテートみたいな部分はメインでどなたがされてるとか。
応募者	一応そこでプロジェクトを進めるっていうことも、働くという背景というふうに考えてユースタウンジャパンの仮想の会社の社員ですということで、各チーム部長がいます。 その部長が責任を持っていろんなことをやっていきたいと思いますということで、今いろんな話をしていて、会社のように、オンライン上で何かネットワークがあるということではないので、オープンなチャットグループ LINE を活用してるそこで引き出しながら、必要な書類等ですね、学校ではないので、いかに学生たちの主体性を引き出すかっていうところが非常に重要だというふうに感じているので、そこを引き出すような形で投げかけをしているということをしています。
審査委員	当日プロジェクト発表されるときにはぜひその教育関係の方たちにもですね関わっていただいたり来ていただいて、どういう道筋を経てこの当日に至ったのかっていうのは、多分学校関係の方が皆さん興味を持たれると思いますので・・・
応募者	それは大人の思考アップデートプログラム、9 月から 11 月まで 5 回シリーズがスタートですけども、その第 1 回目にクドウユウイチ先生がきていただくようにしているので、教育関係の方々は多分多い。長大のナカベ講堂でやるので、今その予定なんです申請させていただいています。 工藤先生、こんな取り組み、民間主導でやってみたいことがあって、ぜひ協力しますというふうに乗ってくれて、長崎まで来ていただいて応援していただけるということで、それは教育委員会ともお話をして、先生方にも、進めていくと。

【⑪ つきまちロックデイズ】

発言者	質疑応答内容
審査委員	ご説明ありがとうございました。 具体的に今ちょっと写されていたところと、説明できなかったところで、イベントを毎月1回土曜日にされるとかという資料があつてたりとか、これはメルカつきまちさんでの今のところ継続的な開催をご予定されてるんでしょうか
応募者	はい。継続していこうと思っています。
審査委員	今年度、もし採択されればメルカ築町さんでの継続イベントみたいなことでしょうか。メルカ築町さんとかそのご関係の方々との交渉はこれからという感じでしょうか。
応募者	はい。メルカ築町さんでの継続イベントで話はしております。
審査委員	なるほどですね、ある程度その場所のご提供というか、確保とか、そういっためどとかは、事前の中でイメージ合わせとかそういったところも具体的にできてる。
応募者	NCCさんがですね、指定管理をされてるけども、このステージは無料なんですね。その代わりに2時間の間に、要するに20分、20分合計40分というルールがありまして、その間で前半にそのアーティストの映像を流して、いろんな思い出話だとか、そういう話とトークセッションをやるんです。 1時間休憩があるんですけどその休憩のときに、いわゆる周りの飲食店で食事をしていただきたい要望があるわけですし、そのあとに最後に、20分にいわゆるカバーをしてる人たちをそこに出演させるということです。 だから音楽の技術のデータも期待はしてません。 そういうことではなくって、やるのが大切だから、とにかくそのテーマに合った、要するにステージをしていただきたいという市民の方にそういうことでやっていくと。
審査委員	今おっしゃられたアーティストとか活動されてる方であるとか、その他のご関係の方とのネットワークは下話っていうのはある程度こうできる方が協力者がいらっしゃるという、ことですかね。ありがとうございました。
審査委員	今ので大体わかったところはあるんですが、おそらくその集客みたいなところが大事になってくるかなと思っていて、今もチケットをどれぐらいでみたいなことをされているかと思うんですけど、フライヤーも、6回×1000枚か、8回出すということで、音楽イベントなんて届く人には届くのかなとは思いますが、何かこうやっぱり若い世代とか、かつて音楽に夢中になってた、当時の青年たちに届けるためにどんな手法で情報をここで築町、メルカに立ち寄るためにお知らせできるのか、確保してるポイントがあれば。
応募者	それはSNSしかないと思ってるんですよ。 そこはSNSとか、要するに、これもある体制を作って発信するというと、あとその僕らやってますけど、そのちょっと大きな画面のポスターをやっぱ築町に常時、年間スケジュール、この時期にはこの仕組みは何が必要という話じゃない。 この次はですね、それをスケジュール表をつくってあとフライヤーをという、あとSNSそれを考えます。
審査委員	ご説明ありがとうございました。 トークセッションとライブ演奏の部分がどういうイメージになるかをちょっとお聞きしたいんですが、トークセッションのときにそこでお話をされるのはこの後演奏される予定の方がみずからお話になる？
応募者	私も含めてですけど、その時に司会進行であつたりとか、いわゆる話、当初長崎の町の思い出ですね、それにまつわる音楽とか長崎のことをご存じの方、何人か予定でまた話みたいな感じです。
審査委員	ライブ演奏の方なんですけど、市民の方でお願いをするというところだと思うんですけどそのレベルは問わないですっておっしゃってたんですけど、それはこういうイベントがあるからあなたも演奏しませんか、歌いませんかみたいなことを呼びかけて、出演者を募るっていう感じなんですかね。

	そこはもう完全にアマチュアの方がやってもいいということで、やはり考えてると。
応募者	はい、そう思っています。
審査委員	一応収支の予算書では、演奏者の方に謝礼はお支払いするようにはなってるんですけどそれはもう、ある程度ちょっとうアマチュアの方とか、セミプロの方とかいろいろな方から手が挙がるかもしれませんが、その辺はもう一律にもう出ていただいたお礼ということで。
応募者	はい、一律で考えています。

【⑫ 体験型アフタースクールイベント「N—ARCH～Winter～」】

発言者	質疑応答内容
審査委員	長崎国際観光コンベンション協会の高橋と申します。先生の集まりだけあって、プレゼン上手だなと思って聞いたんですが、非常に面白い魅力的なコンテンツが多いですし、目玉となる２つの、上映会も含めての監督を呼んでですとか面白いなと思って拝見したんですが、見比べる形で今予算書も比較しながら見てるんですが、先ほどの監督を呼ぶとかいうのは報償費 6 万円というところに、含まれてるんでしょうかね。 また別の事業で何かやっておられるという理解でしょうか
応募者	この予算の中には載せていただいているところです。
審査委員	すごく先ほど山崎えま監督を読んでって書いてあったので、何か交通費だけでも 6 万ぐらい必要だけど来ていただけるんだろうかと思ったもんですから。
応募者	一応ですね、山崎さんのマネージャー方とちょっと連絡を取り合って、その監督自身 12 月の先のスケジュールっていうところをちょっとわからないという状況になりまして、今、いろんな方向で考えてるんですけども、長崎に来ることが難しければ、オンラインでつなげて実際にオンライン上でやればできるようなことも考えていますんで。 またそのときにはその交通費とかはもう大丈夫ですよというふうにおっしゃられています。 今のところはちょっとそこを一番考えてるところです。
審査委員	ご説明ありがとうございます。 当日のプログラムに関する質問なんですけども、一応目玉企画が 2 つ。 1 つは多分会場を使うような形だと思います。 もう 1 つは、中島が眼鏡橋付近の屋外での映像体験のような部分で、残りのスライドの 6 個ですかね、元プロサッカー選手その 6 人の方たちを講師にしたイベントに関しては、これもどちらかというと場所が必要そうなそのまちなかの例えば商店街とか、屋外でというよりはどっかでスペースとかお部屋とかちょっと借りないといけないのかなという感じに見えるんですけどこの 6 つのイベントっていうかプログラムは同じく 12 月 27 日に、同じ日にどこか場所を借りてやるっていうそういった計画でしょうか。
応募者	はい、そうできればと思ひまして、市民会館を使用させていただいて、市民会館前広場とかありますので、スポーツだったりとか、もしくはサッカー、体育館をちょっとお借りさせていただいたと思います。 この近くには諏訪小学校ありますし、諏訪小学校にも相談をさせていただいて、OK させていただいたりとか、そういったことを考えてるところです。

【⑬ 長崎シティジャズ in 新大工町商店街】

発言者	質疑応答内容
審査委員	ご説明ありがとうございました。 長崎シティジャズ JR さんとかですね、まちなかとか新大工さんとかで、4 回されたっ ていうことで、今回今プレゼンされた平戸さんのコンボの復活ということでまた大き な 1 つの発信ができるのかなと思ってます。 本当に新しい歴史とか文化もございますし、新しい動きをですねぜひ商店街も一緒 になってですね、盛り上げてにぎわいを創出していつていただきたいなと思ってます。 1 つちょっとお尋ねしたいのが、今回 1 日だけの復活ということなんですけども、来 年以降、ちょっとその同じ形で継続できるのか、或いは何か別の形でまたコンボであ るとか、平戸さんであるとか、新大工商店街がジャズの聖地っていうことですね、 次の発展というか、発信をされていくのかっていうところを教えていただければ。
応募者	シティジャズ自体はね、ずっとね、毎年続けたいというのは平戸君の要望なんでそれ に対して僕たちもできるだけ続けたいし、今回もジャズ喫茶、コンボはあるというこ となんですけども、これは今回これで 1 日だけを取りあえずそれだけやってみよう ということでもまずやってるんですけども、将来的にはもう直接は無理かもしれないけど、 スポット的にならこういうことができたらいいなと思ってますし、来年度、市の方も 今自治振興課の方に相談して企業版のクラウドファンディングとかを利用してでき るような継続的行った規模を少しずつ大きくして、進めていきたいなというふう に考えております。
審査委員	事業継続性の方もしっかりといろんな協力者、ご相談しながら考えられてる。 ご説明ありがとうございました。 当日のイベントをもう少し詳細に教えていただきたいんですけども、その 1 日限りの 営業ということで、例えば営業時間が何時間ぐらいあるのかとか、あとイメージ的に ジャズのライブをカフェグラートさんお借りしてやるようなイメージなのか、例えば 朝から夜まで喫茶店を経験するのか、そういう音楽ライブ的な部分と、その喫茶を味 わうというところと、実際当日どんな形でお客さん方が、そこに入ってくるのかって いう辺りをもうちょっと詳細なわかる範囲で教えて欲しいです。
応募者	当日はシティジャズが行われていますし、カフェグラードさんとも話してるんですが、 カフェグラートさんも通常営業があるんで、ジャズ喫茶に関してはやっぱり営業後 になると思ってます。営業後にジャズ喫茶として公開しようかと思って、日中の間は新 大工町で長崎シティジャズの特設会場でステージを組んで、そこでシティジャズのイ ベントを昨年度同様にしてそれが、終わった後にジャズ喫茶をオープンするっていう イメージで考えてます。 ジャズ喫茶も正直僕も想像できていないんですけど、これがもし採択されたりしたら それこそお父様が、新大工に住んでいるんで、お父様とも顔見知りなんでね相談し ながら、こういった雰囲気はどういうふうな形にしていいたってのを相談しながら進 めていけたらなと。
審査委員	わかりましたじゃー応昼間は別の特設ステージがあって、そちらに関する経費やそ こで演奏していただく方への謝礼なども今回の予算に入ってるっていうことですね。
応募者	はい、喫茶の方で演奏してくださる方の分も入っています。